

「はちおうじ未来塾」について (2019.8.2 八王子担当者よりレク)

1. はちおうじ未来塾の概要

- (1) 発足 : 2007年5月(現在13期目を開催中)
※開講にあたっては、育成塾の成功事例として知られる、関満博氏が関わる「フロンティアすみだ塾」を参考にしている
- (2) 主催 : サイバーシルクロード八王子
※市、商工会議所連携のもと、地域内の養父な資源を最大限に活用し、魅力ある産業都市「八王子」の形成に向け設立された産業活性化組織。(現会長は地元企業である㈱コスモ計器 代表取締役 古瀬智之氏)
- (3) 共催 : 市、商工会議所、HFA※(Hachioji Future Association)
※HFA・・・当該塾のOB組織であり、組織内部で8~9名程度の「未来塾運営委員会」を設置し、塾運営の主軸を担っている。
- (4) 対象 : 概ね40歳までの八王子市内の中小企業等の後継者(又は承継者)であって、全日程に参加できる者(休めるのは2回以内)
※必ず企業のトップからの推薦が必要
- (5) 募集 : 10名前後(※9名~13名程度の年が多い)
※塾生の確保は苦戦する年が多い
※様々な媒体で広報しているが、一番効果があるのはOBからの紹介
- (6) 受講料 : 10万円/1人(すみだ塾と同額で設定)
- (7) 塾頭 : サイバーシルクロード八王子 会長 古瀬智之氏(㈱コスモ計器 代表)
※関満博氏には第1期~第3期までは「顧問」という立場で関わってもらっていたが、基本的には運営主体に任されていた。
- (8) 期間 : 毎年5月~翌年3月までの全11回(原則第3土曜日の午後)
- (9) 講義 :
・講師による講演(2時間)
・グループディスカッション(討論1時間+発表1時間)
・交流会(1時間半程度)
- (10) その他 :
・毎回「課題図書」が出され、次回までに読破し感想文を提出
・講義終了後3日以内に講義に対するフィードバックを提出
・塾生の自社(工場)見学や他地域との交流(すみだ塾等)も実施

2. 運営の特徴

(1) 運営方法

- 開講後、8年程度は、塾頭を筆頭に講師陣が「答えを与える」塾
- その後、塾頭の交代や HFA（OB 組織）が運営に積極的な関与をきっかけに、塾生と HFA メンバーと一緒に「答えを探す」塾へ方針転換
- 運営上の役割分担は次のとおり
 - 【事務局】サイバーシルクロード、市、商工会議所
 - ➔ 塾生への連絡、予算管理、場所の手配、事務処理
 - 【HFA】未来塾運営委員会の8～9名
 - ➔ 講師選定、塾生のフォロー
- 事務局と HFA は講義終了1週間後に「レビュー会※」を実施し、次回の講義について打合せを行っている
 - ※レビュー会・・・塾生が提出したフィードバックの検証等を行う場
- HFA はこれ以外にも2～3回程度集まり、塾生のフォローや講師との調整を行っている

(2) 講義の内容

- 基本的には「経営者マインド」の醸成
- How to はほとんど行わず、他のセミナーとの差別化を図っている
- 講師は「コンサル」や「研修屋」ではなく、「現役の経営者」が多い
- 講師はなるべく塾生と「同年代の後継者」が多い
- 近年では、創業者や経営に失敗した人も講師と呼んでいる
 - ※創業者は、後継者と違い「自分の仕事が好き」な人が多いため熱意がある
 - ※失敗談も経営者にとっては貴重な情報
- 講師陣は毎年ゼロベースに戻し、その年の入塾者の職種やタイプを見た上でその年にあった講師を選定している（その分調整は大変）

(3) その他

- 課題図書は次回講師が進める図書であり、講師は、後援までに感想文に目を通している（「本を読むクセ」をつけることが目的）
- 毎回講演内容と関係する「グループディスカッション」を実施
- 講義内容を咀嚼し、自社のケースに落とし込む
- ディスカッションを活性化するため、各グループに HFA メンバーも同席するほか、HFA メンバーによるディスカッション及び発表も実施し、見本を示す
- 最終回の卒業発表は、塾にとっての最重要ミッションであり、毎年年明けからは HFA のメンバーが塾生に伴走支援し、何度もブラッシュアップを繰り返す
- テーマは「伝えたい人に、未来塾で気づいた『一番伝えたいこと』を伝える」というシンプルなものとしている
- 卒業発表に「誰を呼ぶか」も塾生が決めている。（社長である父、社員、家族等）
- 発表には多くの労力を費やすため、発表後は大きな達成感を得ることができるが、その後は塾生が「燃え尽き症候群」に陥ることもあるため、じかんを空けずに HFA としての活動を開始してもらうよう誘導している